

ゴミを拾える人になりましょう

海外に行くといろいろなことに気付かされます。1月、2年生の修学旅行でタイと一緒に連れて行ってもらいましたが、本当に多くの学び、経験、出会いがあり、生徒の皆さんだけでなく、教員である僕たちにとっても有意義でかけがえのない機会となりました。タイでは新たな発見がたくさんあり、これまでの自分の中の当たり前が揺さぶられたことを覚えています。運転の仕方、空気の綺麗さ、水道から流れる水、電線の数……。その中で、僕は「ゴミ」との向き合い方ということ、改めて考えるきっかけをいただきました。

タイに比べると、日本の街の中の道路にはゴミが少なく、ほとんど落ちていません。建物の中も、トイレもゴミが落ちていないという光景が当たり前となっています。これは決して当たり前ではなく、清掃をしてもらっている方々や、公共衛生に対する意識が比較的高いからこそだと思います。街中の清掃が行き届いている国も多くありますが、清掃業というものが職業として社会の中に存在しており、街中の清掃もその業務として捉えられていることが多いです。それらの国にとっては、「清掃＝誰かの業務」なのです。

この点において、日本は少し異なります。清掃は誰かの業務ではなく、その場を使う自分たちが担当するもの、自分たちが責任を負うものという考えが根強くあります。ワールドカップで、日本のサポーターがスタジアム内のゴミ拾いを行ったことに対し、世界中から驚嘆と称賛の声があがりました。（清掃業者の業務を奪う行為という批判もありました。）この清掃に対する姿勢は、1200年以上前、仏教が日本に伝えられて以降、場を清めることで、良いものを招き、悪いものを外に掃き出すといった宗教的な部分の名残りとも考えられていますが、それが徐々に日本人の精神や社会の中に脈々と受け継がれていきました。時は流れ、社会も大きく変化していますが、今でも掃除をすることを日本は大切にしています。きっとこれからどれだけ時が流れても、時代が変わっても、この精神は変わらないのではないかと思います。

そこで、「ゴミ」について考えてみましょう。私の恩師にかつて言われたことがあります。次の3人の中で、いちばん残念だと感じるのは誰だというもの。

- ①ゴミが落ちていることに気づき、拾って捨てることができる人
- ②ゴミが落ちていることに気づいたけれども、自分のゴミではないから拾わない人
- ③ゴミにそもそも気づかない人

①が素晴らしいのは間違いのないと思います。②は、気づいているのに拾わなかったのであり、ゴミには気づくことができました。③はそもそも気づくことすらできていないので、拾おうとすらしておらず、仮に気づいたとしても拾ったのかもわからない。まずは自分がゴミに気づくことができているのか考える、その上で、ゴミを見つけた時にそれを自分ごととして考えて、拾える人間になること。自分が見落としたゴミを誰かが拾わなくてはいけない、自分が放置した汚れた場所を誰かが掃除しなくてはいけない。また、ゴミを拾うことができるかどうかは、自分の気づきの力が試されます。小さなことに対しても、視野を広く持つことができること、影響の範囲を想像して行動できることが求められます。こうしたことは、社会人になってもっとも大切だと感じることもあります。多くの学校や企業で、掃除を大切にしている背景には、掃除ができる、ゴミが拾えるということが、実は、美化意識や公衆衛生という表面的なことなのではなく、より深い人としてのあり方、自分自身や自分以外の人たちに対する向き合い方につながっているということなのだと思います。小さなこと、些細なことを日本では「凡事」と言いますが、こうしたことと一つ一つ真剣に向き合うことが何よりも大切なのかもしれません。それが当たり前ができるようになることを「凡事徹底」と呼び、大人になるということなのかもしれませんね。

2年生修学旅行 越境に優る学びなし

1月19日（日）2年生修学旅行を実施しました。昨年に引き続き選択型で実施しましたが、今回はコースを変更し、①国内（広島～神戸～大阪）、②タイ、③シンガポールの3コースとなりました。行き先も別々の3つのコースで共通しているのは、現地の人々との交流を増やし、生活の状況を身近に感じられるような機会を多くしたということです。言葉の通じない、文化や宗教も全く異なる方々との交流により、感情や価値観を揺さぶられ、感謝や謙虚さを学び、僕自身も、社会、世界を理解する素晴らしい研修となりました。

越境は本当にたくさんのことに気づかせてくれます。学校の教室で学んでいる内容が、本当の意味で価値のあるものになります。今回の学びはきっと、これからの未来を生きる上でとても重要な視点をくれたのだと思います。来年度の修学旅行も今年以上に有意義なものになりますように。



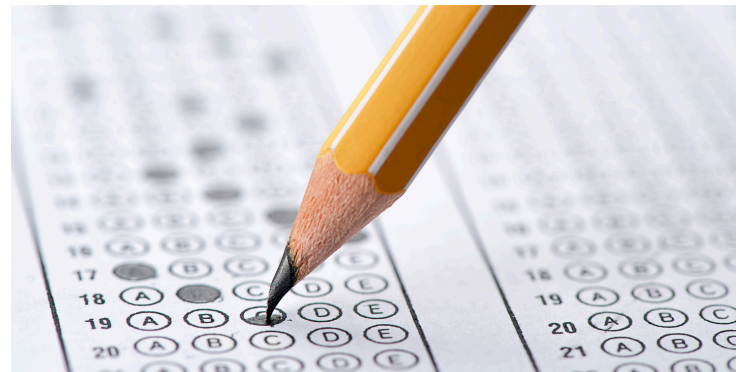
KICからキャサリン校長が来校

2月7日（金）オーストラリアの系列校であるKardinia International College (KIC) よりキャサリン校長が来校しました。キャサリン校長にとって御殿場西高校を訪れるのは初めてということで、全生徒を見てもらおうと思い、1、2年生の教室をすべて回らせていただきました。手を振ったり声をかけてくれた生徒の皆さん、ありがとうございました。手紙まで準備してくれた英語の授業もあり、キャサリン校長もとても感激していました！こうしたグローバルな機会をこれからも大切にしていきたいと思います。



入学試験を実施しました

2月4日（火）5日（水）の2日間で、入学試験を実施しました。昨年は大雪の影響で60名以上を対象に追試験を実施しましたが、今回は快晴の中での実施となりました。初めての受験ということで、緊張した面持ちの中学生たちでしたが、補助生徒たちの活躍もあり、無事に試験を終えることができました。1年前の自分たちを思い出すかのように、優しい先輩たちの姿がとても頼もしく見えました。合格発表は2月14日（金）を予定しております。



保護者の皆様へ

いつも本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。立春を迎えてはおりますが、まだまだ厳しい寒さが続き、春の訪れはまだまだ先なのだと感じております。

繰り返しとなりますが、2年生の修学旅行は非常に有意義な内容となりました。この地を飛び出し、「外」を経験することは大切な学びだと思っています。「内」と「外」の概念が揺らぎ、自分自身をより客観視することで、自分を理解し、他者や社会についての理解が深まります。これに加えて、「～のために何ができるんだろう」「～をもっと良くしたい」という、貢献意欲の向上に繋がっていきたいと思っています。きっとそれが、卒業後の進路や、将来のキャリアを考えるための、いちばん大きなモチベーションとなると同時に、迷った時に自分の背中を押してくれる大きな力となっていくと信じています。

